知恵の樹
No. 267 2022.6.28
町田の図書館活動をすすめる会
https://machida-library.jimdo.com
代表：手嶋　孝典
tejitaka@f8.dion.ne.jp

教育委員会の「後援事務取扱要綱」について考える（上）

守谷 信二

去る 4 月 15 日、町田の図書館活動をすすめる会や鶴川図書館大好き！の会、町田の学校図書館を考える会ほかの共催で、「図書館は市民の宝物！ー鶴川地域の図書館を考える市民シンポジウムー」を開催した。会場は、4 月から指定管理者制度が導入された鶴川駅前図書館のある「ポプリホール鶴川」。この間、町田市が進めている「図書館のあり方見直し」について、改めて多くの市民に知ってもらおうとする運動の一環である。

シンポジウムの概要がほぼまとまった 3 月初旬、私たちは町田市教育委員会に「後援」を申請した。ところが、同月 14 日付けで教育委員会から「後援しないことに決定しました」との文書回答があった。理由は、「事業内容が、町田市教育委員会後援事務取扱要綱第 2 第 1 項(2)オの規定に該当しないため」だという。同要綱の該当箇所は「後援の基準」を定めた部分で、後援をする事業が満たすべき要件が列挙されている。そのひとつとして「委員会の教育行政の運営に関する方針に反しないものであること」とあるのだ。つまり、私たちのシンポジウムの内容が教育行政の運営方針に反しているので、後援はしないというのである。具体的にどの部分が方針に反しているのかメールで尋ねたところ、申請時に提示したシンポジウム企画(案)の「ねらい」に書かれた内容全体と、チラシに記載されている「市によって一方的に廃止や民営化を決められては困ります」という表現が該当するという回答であった。「ねらい」の全文は以下の通りである。

「町田市では、2020 年 2 月に策定された『効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン』に従って、地域図書館の統廃合や指定管理者制度化が進められようとしています。特に鶴川では他の地域に先駆けて、団地内の鶴川図書館の廃止や 2022 年 4 月からの鶴川駅前図書館の指定管理化など、図書館のあり方がいま大きく変わろうとしています。

こうした市の動きの背景には、高齢化や人口減少による将来の税収減に対して、公共施設の一律削減で対応しようとする考え方があります。しかし図書館は、運動競技場やプールなどと異なり、市民の知る権利や読書の自由を保障する社会装置として、重要な役割を担っています。おカネがないからと言って、一方的に廃止や民営化を決められては困ります。ここは市民と行政が一緒になって、知恵を絞らなければなりません。

私たちは、生活の中で様々な資料や情報を必要とする場面に出会います。インターネットは確かに便利なツールですが、その情報は往々にして断片的であり、真偽のほどが不確かなものも少なくありません。やはり専門職としての司書がいて、必要とする資料・情報を的確に提供してくれる公立図書館が、これからも私たちの生活に不可欠な存在としてあり続けてもらう必要があります。

今回のシンポジウムでは、鶴川地域の図書館の現状や今後を考えると同時に、図書館全体のあり方についても考えを深める機会にしたいと思います。基調講演には市内在住の翻訳家・作家であり、図書館のヘビーユーザーでもある辻由美さんをお招きし、ご自身の図書館体験や図書館への思いを存分にお話いただきます。奮ってご参加ください。」(下線は筆者)

上記とチラシ裏面に書かれた「市によって一方的に廃止や民営化を決められては困ります」が特に気に入

らないようなのだが、これは事実である。町田市教育委員会が 2019 年 2 月に決定した「町田市立図書館のあり方見直し方針」も、翌年 2 月に策定したその行動計画である「効果的・効率的な図書館サービスのアクションプラン」も、図書館法で定められた館長の諮問機関である図書館協議会はおろか生涯学習審議会にさえ事実上諮問されず、行政内部だけで作り上げられたものなのだ。私たちは後日、その策定過程を検証すべく会議録などを情報公開請求したが、あろうことか文書不存在との回答だった。

図書館のあり方を大きく変える計画が、市民や専門家の声をほとんど無視し、内部でどのような議論がなされたのかも検証できないような形で、まさに「一方的に」作られ実行に移されているのである。

という訳で結果的に、今回のシンポジウムは教育委員会の後援を得られぬまま開催するほかなかったが、それでもオンライン参加を含めて 90 名近い（会場参加は 50 名）参加者があり盛会であった。

それならば、はじめから後援など求めなくともよさそうなものだが、実はそうはいかない事情がある。ギリギリの予算でたくさんのチラシを作っても、効果的に配布できなければ意味がない。地域の学校にお願いして児童・生徒を通じて各家庭に配布してもらったり、公共施設に置かせてもらったりするのだが、ここでも近年特に内容のチエックが厳しいように感じる。公共施設では置くスペースが限られているということもあるのだろうが、チラシに「後援：町田市教育委員会」の一言があるか否かで扱いが大いに異なるのである。

それにしても、自分たちが決めた方針や計画に反するからという理由で、後援を認めないという教育委員会の姿勢は、いかにも権威主義的ではないだろうか。ひとつ間違えば、大きな問題に発展しかねない危うさも潜んでいるように思う。

教育委員会が万事にわたって常に正しい判断を下すなどということはあり得ない。それは、いまや言うまでもない常識である。してみれば、教育委員会がひとたび決定した方針なり計画に対して、市民の中になお多様な意見がある場合、そのことについて市民が主体的に議論し、考えを深めるための機会をもつことは、むしろ教育委員会として大いに奨励し、援助すべきものではないだろうか。そうした行為を積み重ねることによって、本当の意味で市民生活に役立つ方針なり計画なりが練り上げられていくのである。

今回のシンポジウムの「ねらい」は、まさに下線部分に書かれているように、地域住民が身近な図書館という公共施設について互いに考えを深め、市に対して必要な意見具申をしようとするものであり、「住民自治」の基礎となる活動そのものである。「後援」は、教育委員会がその事業に賛同していることを前提とするというのなら、市民が行政のあり方を自主的に考えようとするそうした活動自体に賛同する、というくらいの度量の広さがあってしかるべきではないか。（次号へ続く：会員）

こんな本見～つけた！（第37回）

『図書室のはこぶね』

名取佐和子（著）　実業之日本社　2022年

紹介：石井　一郎（金森図書館）

学校の図書室をどのくらい利用しただろうか。私は、中学の時の利用回数は 0 回。高校では、図書室をよく利用した。高校1年のときの教室が図書室の隣にあったので、毎日のように通った。そうしているうち、先生から図書委員に指名され、ほぼ 3 年間を委員として過ごした。当時の貸出方法はコンピューターではなく、図書カードに貸出者と貸出日と返却日を書き込むやり方で、個人情報が丸見え。本を借りていくうちに、ある名前をよく見かけるようになった。いつしか顔も知らない先輩と競うようにして本を読んだことが思い出される。

最近、書店で高校の図書室が舞台で、図書委員が活躍する本を見つけた。『図書室のはこぶね』だ。舞台は野亜高校の図書室。主人公は 3 年生でバレーボール部のエースの百瀬花音（かのん）。花音は 1 学期に左足をケガして、引退試合も応援だけ、体育祭にも参加できなくなり、気持ちがモヤモヤしている。クラスメイトの図書委員から体育祭までの 1 週間、代理の図書当

番を頼まれた。図書当番の初日、カウンター周りを片付けていると文庫本の『飛ぶ教室』を見つける。データ上では 1 冊のはずが書架にもう 1 冊。見つけた本からメモ書きされたルーズリーフの切れ端が出てきた。紙には“方舟はいらない　大きな腕白ども　土ダンをぶっつぶせ！”という暗号めいた文字。花音は当番を一緒にした俵朔太郎と本の返却者を探す。本は 10 年前に貸出され、未返却だったことがわかる。なぜ、今になって返却されたのか、メモの「方舟」は何、「大きな腕白ども」はだれ、「土ダンをぶっつぶせ」とはどういう意味だったかを探る。土ダンは「土曜のダンス」の略で、野亜高校の体育祭の伝統種目。「Saturday　Night」の曲に全学年のクラス対抗で仮装し踊って競うもので、生徒が一番盛り上がり、力を入れている。やがて、二人は 10 年前の図書委員だった先輩の思いを知ることになる。

本書は図書室が舞台なので、実在する本が出てくる。小説に出てきた本は巻末の「野亜高校図書室　今月のおすすめ本」に 7 冊紹介されていて、読みたくなる。読後、野亜高校図書室を利用したくなった。窓からは艦船が浮かぶ港を見ることができる。検索機で「本ソムリエ」というメニューがあり、3 問の質問に答えると検索者の気分や目的にあったおすすめ本を紹介してもらえる。20 年以上勤めている学校司書がなんでも答えてくれ、生徒たちを見守ってくれる。図書室が居心地のいい場所として描かれている。図書館員として、利用者に何度でも利用できるように場と情報を提供したいと強く感じた。「本ソムリエ」というアイデアは、町田市立図書館でも参考にしてみたくなった。本書のようにプログラミングはできないが、応用できそうだ。例えば、本の福袋のメッセージに使ってみたい。ヤングアダルトコーナーでの特集に本書は使える。特集テーマとして「青春の一ページ」「わたしたち高校生」など。

本書はミステリー仕立ての青春小説。青春小説は、少し苦手という人もぜひ読んでみてください。読んでいくと、懐かしさを感じたり、元気をもらったりする。最後に、花音が気合を入れるときの言葉を紹介したい。「しゃっ、こーい」。意味については、この本を読んで確認してみてください。

【おまけ】高校図書室が舞台で、学校司書が主人公の小説として、竹内真が書いた『図書室のキリギリス』、『図書室のピーナッツ』、『図書室のバシラドール』の三部作(いずれも双葉社)もおすすめしたい。　　(会員)

鶴川図書館大好き！の会　第 7 回ワークショップを開催

～鶴川地域の図書館の今後を考える～

森 弘子 （鶴川図書館大好き！の会　鶴川 6 丁目在住）

6 月 11 日(土)午後1時半から 4 時過ぎまで、鶴川市民センターの会議室にて 14 人が参加して行われた。

1. 鶴川駅前図書館の指定管理者制度導入について

(1)導入後 2 か月経った様子など

人がまばらな印象。特に夜 8 時までの開館だが、遅い時間はほとんど人がいなくて、不健康な感じがしたという感想があった。おはなし会のボランティアに参加している方からは、今までと違って、図書館側との事前の打ち合わせは特になく、伝えておいた演目をやってくださいということだけで、プログラムの相談も終わってからの反省会もなかった、とにかくやることをただやるという印象だったと聞いた。今後も気を付けてみていくことになった。

(2)指定管理料について

指定管理にする目的に、経費を削減するというのがあったはずなのに、直営の場合の 2020 年度予算や開館日時の拡大ケースの試算額より増えているのはどういうことか、疑問である。資料を基に説明があった。

・指定管理の契約額…1 億 818 万円
・市直営の 2020 年度予算額…9,048 万円
・2019 年度決算…7,928 万円

経費の増減よりも、指定管理にすることが目的とされ

ている。公共の施設を減らす自治体に、国から補助金・交付金などが出るようだ。

(3)会計年度任用職員(司書)の処遇

会計年度任用職員は、他の館へ移動。雇用はつながったが、5 年ごとに新規採用と同じ試験を受けなくてはならない。八王子市は図書館だけでなく、市全体で会計年度任用職員の雇止めがない。町田市議会では、佐藤和彦議員が質問するので注視したい。また、「噂の！東京マガジン」(BS-TBS テレビ)で、非正規公務員の問題が 5 月 22, 29 日に放映された。非正規公務員などについて研究している上林陽治氏の発言もあるので、会員皆で見たいとの希望が出された。

2. 鶴川図書館について

(1)支援業務受託業者について

「鶴川図書館運営計画策定及び運営団体結成支援業務委託」の受託者決定に至るまでの経過について資料を使って説明があった。プロポーザル参加希望事業者からの質問と市側の回答の資料も配布された。6 月 15 日に(株)HITOTOWA が契約することになっている。受託業者についてなどの情報交換を行った。

・受託業者は、地域のコミュニティ作り、団地やマンションのコンサルティングをやっている。今年予算がつき、来年図書館の改修にかかわるだろうが、それ以降は不透明。

・町田南地区の駅前連絡所リエゾンの閉鎖が決まった。図書の受け渡しはどうなるのか、「まちライブラリー」に委託？というような情報もあり、今後が気になる。

・最近商店会には図書館職員 3 名が来て、また説明に来ると言っていた。UR の 3 月の改修計画は自治会の了承が得られず延びている。自治会は、提示された引っ越し費用の額の根拠を求めている。スーパーヤマザキの閉店で、その後にビッグ・エーが開店。 建て替えが始まったら、郵便局と図書館が、商店街の中ではなく別の場所に一時的に引っ越すことになるかもしれない。

(2)会としてどのように対応していくか

市の図書館として残していくために、会計年度任用職員を主とした運営について、八王子市、多摩市の人件費などの具体的な資料を基に、提案・説明もあった。この後グループ討議に入る予定だったが、会としてどういう図書館の形を要求していくのか、統一しておく必要があるので、全体で話し合った。たくさんの意見の中からいくつか紹介する。

・中学生を引き付けたい。岐阜市立中央図書館メディアコスモスを見学して、子ども司書のラジオ出演などの取り組みを知った。きちんと養成講座もしている。

・前回確認したことは、いろいろな提案の基本にあるものとして市立図書館として残していこうということだった。

・4 月 15 日(金)のポプリホールでのシンポジウムで、講演した辻由美さんがフランスの図書館で催しが多いことを紹介された。それは単に打ち上げ花火のような人寄せという意味ではなく、豊富な図書館資料を活用して、市民に図書館の役割や機能をアピールするために実施しているのであり、図書館が率先してやることが大事と言っていた。

・鶴川図書館は団地の中にあり、商店街や広場があって、高齢者も利用するが、再編後は巨大な中学校に近接し、駅前図書館とは違う展開があると思う。中学生とビデオを作ったりしたが、子どもの親が手伝ってできることもあるし、英語多読の会ができることもある。

・さまざまな活動を支える協議会のような核になるものがあるといい。

・リモートワークする人が多いのは、これからも変わらないと思う。地域の交流スペースが求められ、司書と Wi-Fi の機能は必要。

・司書など専門の職員がいることの良さをもっと市民や市にわかるよう伝える必要がある。

・高校の国語の教師をしている。図書館は司書の働きと幅広い蔵書が基本。市立図書館でなくなれば、相互貸借がなくなる。利用者を増やすこと、小中高生が利用しやすく、自習スペースがあること、学校と連携して、そこに市民が手伝うなどができたらいい。

・「市民協働」を市はどのように定義しているのか明確でない。北区のように市と市民が対等に話し合う場が必要。

・私たちが考える市民協働について示しながら、専門性と資金について言っていく。

・野津田のバラ園は、指定管理になって市との二重構造になり、市民の関わりが難しくなった。

・以前鶴川地域の 2 図書館は学校支援をやっていた。職員が出前授業をやることで、地域の子どもを継続してみていくことができるし、子どもも親しむことができる。地域に根差した図書館でありたい。

話し合いの結果、私たちが求める姿を文章にまとめ

ることになった。そこには、機能として大事なもの、市民がかかわることで鶴川図書館の存在価値が増すような提案を入れる、そして計画を市民と対等に進めることを求めるものにする。

また今後 HITOTOWA が会に面会を求めてきたときは、メンバーみんなで対応すること、そしてそこには図書館の人も加わるように求める。

その他、団地の夏祭りが 7 月 30 日(土)にあるが、夜のイベントでもあり、私たちの思いをアピールする活動が難しいので、今回は会としては出店しないこととした。

3. 最後に

今回のワークショップは、市立図書館として残すことを前提にした上で、新しい図書館の姿も展望することができて、少し明るい気持ちになった。今年初めには、開館 50 年にあたっての市民のメッセージが鶴川図書館の窓ガラス一面に貼られていた。みんなに愛されている図書館を長く残したい。

＊　カットは、しょうじ りお　さん(会員)の作品です。

日野市立図書館の「読書調査」結果報告書の紹介

手嶋 孝典

日野市立図書館は、2020 年 6 月に実施した「読書調査」の結果報告書をホームページに掲載している。

最初に私がこの「読書調査」とその結果報告書を紹介しようと考えた理由を以下に記すこととしたい。

報告書の「はじめに」で、「5 月 25 日に緊急事態宣言が解除され、日野市立図書館も 6 月から通常開館を再開しました。緊急事態宣言中、また図書館休館中、利用者の皆様の読書活動がどうだったかを把握するとともに、市民にとって図書館とはどのような存在なのかを知るまたとない機会と考え、アンケートを実施し」たとある。このように発想したことが、新鮮な驚きだった。

次に膨大な量の調査を報告書としてまとめたことに対する敬意である。調査には 2,585 件もの回答があり、「本や読書、図書館への思い」の項目では、1,668 件の声が寄せられたことは、日野市民の図書館に対する熱い思いがあるからに違いないが、それを真摯に受け止めた図書館の対応を評価したのである。

以下、日野市立図書館のホームページから、かいつまんで紹介する。

この「読書調査」は、「新型コロナウイルス感染症拡大防止のため」、日野市立図書館は 2020 年 4 月 9 日から 5 月 31 日にかけて臨時休館したが、「休館中の読書活動や、『本や読書』『図書館』への思いについて聞くため、図書館再開後に」実施したものである。

調査期間は、2020 年 6 月 13 日(土)～6 月 30 日(火)、対象は日野市民及び日野市立図書館利用者である。場所は市内各図書館(全 7 館)、移動図書館ひまわり号、図書館ホームページであり、①市内各図書館窓口で調査用紙を配布、②図書館ホームページ上での入力受付の方法の二通りに拠ったとのこと。

以下の URL で、155 頁にも及ぶ「読書調査」結果報告書(以下、「報告書」)の全文を読むことができる。

https://www.lib.city.hino.lg.jp/news/hinoreport2020.pdf

設問は以下のとおりである。

① あなたの年齢を教えてください。

② 学校休校や外出自粛などの期間(3月～5月の間)、本を読みましたか。

③ 学校休校や外出自粛になる前と比べて、本を読む量は変わりましたか。

④ ②で「読んだ」と回答された方は、本をどのように用意されましたか。
⑤ ②で「読んだ」と回答された方は、どのような目的で本を読みましたか。
⑥－(1) ご自宅でインターネットを利用することはできますか。(使用の可否について)
⑥－(2) ご自宅でインターネットを利用することはできますか。(使用できる機器について)
⑦ ⑥で「できる」と回答された方は、3月～5月の間、次のものを利用しましたか。
⑧ あなたにとっての「本や読書」、または「図書館」への思いをお聞かせください。

各設問についての結果詳細は、報告書を見て頂くしかないが、ここで最も興味深いのは、設問⑧「あなたにとっての『本や読書』、または『図書館』への思いをお聞かせください。」への回答である。

報告書は、設問⑧の回答を「図書館の臨時休館・非常事態宣言・自粛」、「図書館が再開して」、「図書館への思い」、「本・読書・図書館」、「私の図書館利用方法」、「図書館に望むこと」、「図書館の職員」、「本と読書」の8項目に分類し、それぞれ10才未満から70才以上までの区分ごとに全文を掲載している。圧巻なのは、それを報告書の大半(23～155頁)を費やして紹介していることである。

本稿は区分ごとに一例ずつ記載することで、紹介に代えたいと思うが、ほんの一例に過ぎないので、願わくは全文に接して頂きたい。

図書館の臨時休館・非常事態宣言・自粛:休みの間本をかりられなかったからさみしかったです。(10 才未満、小学3年生)

図書館が再開して:読書は大好きなので図書館が再開して本当にうれしいです。これからも、もっともっと読みたいです！(10 代、中学2年生)

図書館への思い:ふだん本は、図書館で借りて読むことが多いので、日々の生活に必要な大切な場所です。図書館の中を歩き回りながら本を選ぶのが好きなので今は、あまり行けてませんがコロナがもう少し落ち着いたら、今までのように通いたいです。(10代、高校 1年生)

本・読書・図書館:本や読書・・・情報収集／図書館・・・好きなジャンルの本を借りたいときに借りられる。仕事やプライベートに役立てられるきっかけの場所だと思います。(20代)

私の図書館利用方法:子供の教育のため、たくさん本を読みきかせたいので図書館で幅広い書物にふれさせたいと思っています。また、私自身の仕事や趣味のために情報をえるのにすごくお世話になっています。専門書など蔵書は幅広く多くとりそろえてほしい。(30代)

図書館に望むこと:図書館は多くの本に出合える場なので、感染対策をしながら利用が続けられると良いと思う。インターネットで本の予約ができるため、子供のおすすめの本 など紹介をしていただけるとありがたいです。(40代)

図書館の職員:いつも大変親切なスタッフの皆様へ感謝申し上げます。(50代)

本と読書:私にとって読書は生活の一部になっています。そして今回のコロナ禍で外出自粛の折り本が読めることは幸せなことです。常日頃読みたいと思っている本をリクエストすると他市からも取り寄せていただけるのはとっても有難いです。図書館が臨時休館になりましたが、休館になる以前にリクエストした本が借りることが出来て嬉しかったです。移動図書館ひまわり号をよく利用させてもらっていますが、便利で助かっています。職員の方も親切にして頂きいつもありがとうございます。(70才以上)

このように、図書館利用者に寄り添って運営しようという図書館があるかと思えば、「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」なるものを市民の反対を押し切り、行政が恣意的に策定し、図書館をないがしろにする道をひたすら突き進む図書館もある。

いずれにしても、どちらの図書館を選択するかは、主権者たる市民が決定するのだということだけは間違いない。 (会代表)

お詫びと訂正

本誌前号(№266)の2頁、「鶴川地域の図書館を考えるシンポジウムに参加して」の著者のお名前を間違えて掲載してしまいました。

武藤水穂さんと標記しましたが、武藤水緒さんが正しい標記です。

お詫びするとともに訂正させて頂きます。

なお、PDF版については、訂正済みです。

地域の子どもたちがお薦めする図書館の本（第 6 回）

『ことばと思考』

今井むつみ（著）　岩波書店（岩波新書 新赤版 1278）　2010 年

推薦：**高橋美華（たかはし・みか）　玉川学園高等部 2 年生**

私はほとんどの授業をネイティブ教員による英語で行うクラスに在籍し、レポートや試験も英語で行われる。昨年、高校 1 年次の 1 年間を通して言語と人間の関係性をテーマに資料を調べ、多くの人にインタビューをした。言語比較のためオンライン講座で中国語を学び、中国語能力検定 HSK を受けた。研究の成果物として 15 分ほどの英語プレゼン動画を作成し、YouTube で限定公開をした。YouTube のコメント欄には級友や教員だけでなく、言語学者をされている保護者の方からもコメントをいただけた。言語への好奇心がさらに強まった。

今春、本書の存在を知り読み始めた。著者は序章で問う。「ことばは世界への窓である」、「ことばは私たちの世界の見方、認識の仕方と、一体どのようなかかわりを持っているのだろうか」（p2）と。まさに私の問いであり、研究テーマである。本書は序章、第 1 章「言語は世界を切り分ける」、第 2 章「言語が異なれば認識も異なるか」、第 3 章「言語の普遍性を探る」、第 4 章「子どもの思考はどう発達するか」、第 5 章「ことばは認識にどう影響するか」、そして終章で論考が展開される。

まず私が関心を持ったのは、世界には名詞を「性」(grammatical gender)で分類する言語がいくつも存在することである。男性形・女性形の他に、第 3、第 4 の性カテゴリーを持つ場合もあるという。また、可算・不可算で区別したり、中国語や日本語のように「1 枚」「1 本」「1 匹」と数字に助数詞をつけて形状や性質を表したりする言語もある。言語によって名詞の分類方法が異なることは、民族・文化特有の概念や価値観が言語に投影され、話者の思考にも反映される。

興味深いのは、多言語音声の「聞き分け能力は 1 歳の誕生日ころまでに失われてしまう」（p130）、「子どもは自分の母語を学習することで（中略）基本的な知覚の情報処理がすばやく正確にできるよう、不必要な情報に注意を向けないようにする」（p169～170）という論説である。私のクラスに多くいる帰国子女たちを見ると、幼少期の言語環境が他言語の運用能力に大きな影響を与えるのは確かである一方で、小学生時代に英語圏で生活を始めて現在はネイティブ同様に英語を話せる級友は多い。1歳限界説に 100%の同意はしにくい。

本書で著者は、アメリカの著名な言語学者ベンジャミン・リー・ウォーフの主張「言語における世界の分類が異なれば必然的に、時に理解不能なまでに思考も異なる」（p207）に何度となく反論を試みる。終章で著者は「理解不可能なほど違う認識を持っているとは考えにくい」（p213）と結論づけるが、浅い言語経験ながら、私はやはり異言語間での認識は相当にかけ離れていると常々感じている。

たとえば、川端康成の『雪国』の冒頭「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」の英訳、“The train came out of the long tunnel into the snow country.”は、その一例である（北条常久「翻訳された川端康成『雪国』」『あきた経済』2021 年 2 月）。川端の文章で主語は明示されていないにもかかわらず、日本人なら列車内にいる人の目から見た情景であると容易に想像がつく。しかし、英訳の主語は“The train”であり、読者が思い浮かべるイメージは遠景から見た列車である。視線と景色がまるで違う。

とはいえ、著者が終章で「言語のフィルターを通した様々な認識の枠組みが存在することを意識すること――それが多言語に習熟することによりもたらされる、最も大きな思考の変容なのだ」（p223）と締めくくる点には、無条件で賛同したい。これは単なる言語問題にとどまらず、性差、人種、民族、経済格差など諸グループ内で使われる「ことばと思考」の相違こそが社会的対立の要因であり、それを追究することは今後ますます必要となるだろう。

＊　町田市立図書館は 2 冊所蔵しています。

ひろば

例会 5/24（火）　報告

・16:00～　印刷・発送作業等:
　伊藤・清水・鈴木(真)・手嶋・丸岡・守谷
・18:10～19:50　中央図書館・中集会室
出席:石井・伊藤・金澤・清水・鈴木(真)・手嶋・福田・守谷

議題

1. 会報について

次号(№267):巻頭言(未定)⇒4/15 シンポジウムが教育委員会の後援を却下されたことへの批判(守谷)。6/11「大好き！の会」第 7 回ワークショップ報告(森弘子さんや高橋門樹さんに依頼を検討(鈴木))⇒森弘子さん。「こんな本見～つけた！」第 37 回(『図書室のはこぶね』石井)。「地域の子どもたちがお薦めする図書館の本」第 6 回(『ことばと思考』高橋美華さん)。

2. 今年度の世話人について

書記(嘱託労に打診中)→書記:清水

3. 今年度の活動計画について

議題3. 4を今後は統合する。

講演会 4/15 実施済みだが、年度内にもう 1 回計画できないか？→(引き続き検討)

図書館見学会 茨城県守谷市中央図書館見学と守谷市の図書館を考える会との交流。日程:未定→継続

4.「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

鶴川図書館大好き！の会の取り組み

2022 年度も鶴川図書館が公立図書館として存続できるよう活動する。

5 月 8 日(日)鶴川図書館大好き！の会第 6 回ワークショップ 実施済み(15 名参加)「知恵の樹」№266 掲載。

6 月 11 日(土)鶴川図書館大好き！の会第 7 回ワークショップ 午後 1 時 30 分～4 時 鶴川市民センター

業者決定 6 月 15 日に業者と契約。

「鶴川図書館運営計画策定及び運営団体結成支援業務委託 」公募型プロポーザルが進行中

(本誌、今号「鶴川図書館大好き！の会 第 7 回ワークショップを開催」を参照。)

・会計年度任用職員の人たちの本音を聞きたい。現状では組合活動の負担と成果を比べると、どう取り組むかを考えることが必要である。難しい問題であるが。

「すすめる会」の取り組み

図書館嘱託労との話し合い

6 月 9 日(木)午後 6 時 30 分～

5.「しんぶん赤旗」購読中止問題について

2022 年 4 月 23 日付け文書回答要求書

2022 年 5 月 14 日付け質問と回答要求書(二度目)

2022 年 5 月 13 日付け「質問 と回答要求書」について(回答) 「知恵の樹」№266 掲載。

6. 行政不服審査請求に係る諮問に基づく審査の開始について

口頭意見陳述について→申し込む(手嶋)

公文書の不存在が問題という事を主張したい。「知恵の樹」№266 参照。

7. 図書館友の会全国連絡会要望書の賛同について

国立国会図書館、総務省、文部科学省に提出予定。→ML に添付し意見を求める。

8. 図書館友の会全国連絡会通信総会について(割愛)

9. 図書館友の会全国連絡会交流集会について

2022 年度会員交流会をオンライン(Zoom)で行う。

7 月 2 日(土)午後 1 時～4 時。

報告

1. 団体及び個人からの報告

嘱託労:会計年度任用職員の処遇改善にむけた法改正を求める署名の協力ありがとうございました。定期大会はリアルも検討したが、書面での開催になった。

学校図書館を考える会:6 月 18 日に総会開催(zoom)予定。

柿の木文庫:最近は感染対策を施し対面でおはなし会、例会など実施している。

『図書館研究三多摩』第 12 号を刊行

山口源治郎　図書館への期待

市民にとって図書館とは？(あきる野市中央公民館　市民企画講座)

新しい中央図書館に期待すること(多摩市永山公民館　市民企画講座)

「図書館の会」のこと ー山口源治郎先生との学習会ー　西東京市　はとさん文庫主宰／服部雅子

＊1部 800 円(送料別)です。ご希望の方は、手嶋までお申し込みください。

tejitaka@f8.dion.ne.jp